
珠詩

希菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

珠詩

【Nコード】

N6251K

【作者名】

希菜

【あらすじ】

題名の読み方は彼の名前と同じ

別れ際 そつと振り返る

見えたのは上着の裾

歩く

橋の上

月

左手の広い道路

午前0時

月

一面の車は消え失せ 道路を挟んで反対側へ渡る

早足

途端に静寂

月

泣けと？

用意された舞台

冷たい目元

啜る鼻

月

さきほどよりもぼんやりと月

想像以上に長い 出来上がった舞台

首を振り下ろした

歪んだ月はただの雲のせいだと知る

意味ありげに一台だけ前方から車

瞬間よぎる

別れとはつまりこういうことをも 意味に含む

車はただ通り過ぎた

それでもこれは大切なことで

こんな別れは初めてだけど

こんな決意も初めてで

少しだけど確実に強くなっていた

月

暫く無心で足を運んでいると 覗いたのは彼と出会った小学校

予定通りの帰路は すっかりきれいにされてしまった通学路だったのを思い出す

今から通るのはひとりで帰る通学路

ここでは少し笑ってしまう

思い出した寒さに鼻を吸り 缶コーヒーを買った

見たこともない銘柄

初めて飲む味のコーヒー

熱

今から始まるたくさんの初めて

その初めてが私を変えてしまうだろうか？

彼を変えてしまうだろうか？

缶コーヒーを握った

人間は変わるものだと思う

月

コーヒーは苦い

私は今家の下で詩をかいている

かき終わるまで部屋にはもどらない

そのうち友人にみせてやりたい全力で無力な詩を

詩というにはあまりにも率直な

飾りのない文字の羅列

コーヒーは苦い

ここからは月はもうみえないけれど

きつと月はまたみれる

そんなの常識で 誰でもみれるしこの地球の何処からでもみれる

似たようなことは他にもあるんだとおもう

願う

コーヒーの最後の一口はたいして苦くはなかった

もう慣れたのかな？

初めてに一つ慣れた

鼻を吸る

そろそろ帰ろうかな

風邪気味だから明日は目覚めがきつと悪い

でもそれも悪くはない

気がついたら彼がもう遠い

そんなことを願う

希う

最後に一言彼にメッセージを記そう

例えば俺らに最後の日なんてのが訪れるというなら その時まで
に何か上手い言葉を考えておくよ

追伸

玄関前で飲んだ苦いコーヒーの本当の最後の一滴は ほんのり甘
かったよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6251k/>

珠詩

2010年10月9日08時07分発行